

昭和八年の皇太子殿下ご誕生記念碑

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲皇太子殿下夫妻の松原専修職業訓練校視察(上田6丁目、昭和45年9月10日)



▲柴籬神社御成婚記念碑(上田7丁目)



▲反正山地蔵堂御誕生記念碑(上田5丁目)



▲正井殿御誕生記念碑(岡3丁目)

上皇陛下誕生の十二月二十三日
正井殿・反正山地蔵堂境内に建立

昭和八年(一九三三)十二月二十三日、上皇さまが昭和天皇のご長男(第一皇男子)として誕生されました。明仁親王殿下で、ご称号を継宮と名付けられました。十八歳になられた昭和二十七年(一九五二)十一月十日、成年式を迎えられ、同時に立太子の礼が執り行われました。昭和六十四年(一九八九)一月七日、昭和天皇の崩御に伴い第一五代天皇として即位され、年号も平成に改められたのです。平成三十一年(二〇一九)四月三十日、退位礼正殿の儀が行われた後、上皇となられました。そして、皇太子の徳仁親王殿下が即位し、令和の時代が始まったのです。本年、上皇さまは九十歳になられました。

さて、昭和八年、皇太子の誕生に、日本中はお祝いムードに包まれました。その一環として、各地では誕生を記念した石碑も建立されたのです。松原市内でも、二基の記念碑が知られています。

一つは、岡三丁目の正井殿境内に入った右手、反正天皇の伝「玉水の井戸」(「歴史ウォーク」301)の手前に建てられています。正井殿は岡と立部の氏神で、素戔鳴尊を祭神とします。正井殿という社名の由来は、五世紀前半、反正天皇が上田七丁目

の柴籬神社に伝承される丹比柴籬宮で即位し、同地で玉水を汲んだ井戸があった事に拠ると伝わっています。

石碑は南面して、「皇太子殿下御降誕記念」と刻まれ、西面には建立年の「昭和九年四月三日」とあります。建立者は、刻まれています。ただ、同碑前の鳥居側に、昭和七年(一九三三)三月に「松原村青年団岡支部」が建てた石標が見られますので、当時、活発であった青年団活動ともからめ、岡の人々が関わったと考えられます。

もう一基は、上田五丁目の地蔵堂広場に見られます。同地は、江戸時代までは上田村の分村として、反正山村と呼ばれていました。河内松原駅から中高野街道を南に歩いて五分ほどのJA大阪中河内松原支店の手前を西に入った古い家並みの一角に地蔵堂・観音堂・二見龍王社が祀られています。明治時代末期までは善法寺(「歴史ウォーク」127)という浄土真宗本願寺派の寺院が建っていました。廃寺後、地蔵堂などが移されました。

反正山村は、すぐ東方に伝承される反正天皇の丹比柴籬宮の宮域内にあると考えられたことなどから村名としたと言われています。今も反正山実行組合や反正山水利組合の名称が受け継がれています。

地蔵堂横に、西面に「皇太子殿下御誕生記念、裏面には、誕生日の「昭和八年十二月二十三日」とあります。正井殿碑とそれほど期間をおかず、

建立者は刻まれていませんが、反正山地区の人々によって建てられたと思われまます。

昭和三十四年(一九五九)四月十四日、皇太子さまは正田美智子さま(現上皇后)とご結婚されました。丹比柴籬宮伝承地である柴籬神社境内の歯神社(元、反正山村の氏神)横に、この時の記念碑が建てられました。「皇太子殿下御成婚記念」碑です。昭和八年のご誕生記念碑と共に歴史的遺産です。

ご結婚から十一年後の昭和四十五年(一九七〇)九月十日、皇太子ご夫婦は初めて、松原市を訪問されました。柴籬神社のすぐ南方にあった府立松原専修職業訓練校(上田六丁目)を二時間にわたって視察されたのです。正午過ぎにお着きになられた。訓練生の実習過程をご覧になられました。多くの市民が沿道につめかけ歓迎したのです。

現在、職業訓練校は移転して、今では松原ポンプ場場になりました。同地は、小字「若山」と呼ばれており、反正天皇の皇子が住まいした地であると伝承することから、字名となりました。

岡の正井殿、反正山の地蔵堂、柴籬神社、若山の職業訓練校と、いずれも反正天皇ゆかりの伝承地です。これらに、上皇さまの記念碑や行啓が見られるのは、偶然とはいえ、歴史の巡り合わせを感じずにはいられません。